



| 2027年3月期 第1四半期 決算説明会 | (2026年4月-2026年6月)

2026年8月6日

01 | 2027年3月期 第1四半期 連結決算の概要

02 | 2027年3月期 業績予想

03 | Appendix

| 2027年3月期 Q1 連結決算の概要 (2026年4月-2026年6月)

副社長 兼 CFO | 斉藤 雅也

全地域で増収・増益。特にアジア・日本が牽引し、2桁大幅増収 売上増、原価率の改善により、営業利益は大幅増益

| 売上高：91,624百万円 前期比+11.8%、（為替影響：+38億円）| ロート単体が好調に推移

日本	▶	ロート単体は「肌ラボ」、若者用目薬、「ロートV5」、「オバジ」、高額目薬、「ケアセウ」等が好調に推移し増収 子会社の天藤製薬、クオリテックファーム(QTP)、ロートニッテンも増収に寄与
アジア	▶	ベトナム、中国、マレーシア、ミャンマー、台湾、インドネシアが好調に推移 ユーヤンサン・インターナショナル社(EYS)が大幅な増収 為替の影響：売上+24億円
アメリカ	▶	米国メンソレータム社、ブラジルの連結子会社が増収に貢献 医療用消毒薬等を製造・販売するハイドロックス・ラボラトリーズ社(ハイドロックス社)が減収
ヨーロッパ	▶	英国、ポーランドのダクス・コスメティクス社(DAX社)、南アフリカが大幅な増収 モノ社は受託生産の受注減の影響で減収

| 営業利益：13,663百万円 前期比+16.8%、（為替影響：+7億円）| アジアが大幅な増益

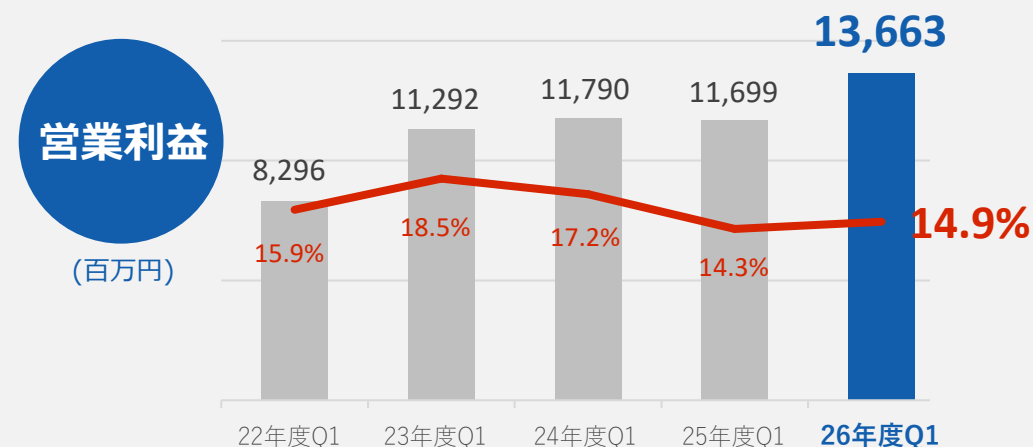
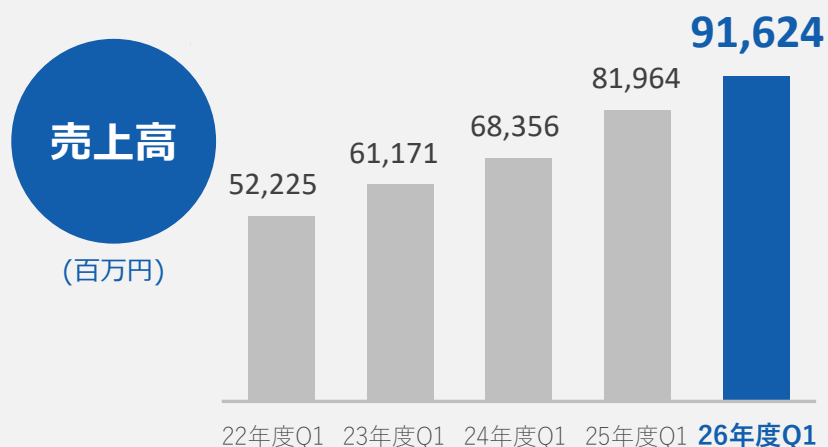
日本	▶	肌ラボの値上げによる原価率の改善により増益（ロート単体は大幅増益、QTP、ロートニッテンは減益）
海外	▶	増収効果と原価率の改善により大幅増益（EYS、ミャンマー、英国が大幅増益）

| 通期予想：売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を5月13日の公表値から上方修正

売上高、営業利益は好調に推移、営業利益率も堅調に推移

(百万円)

	2024年度Q1	2025年度Q1	2026年度Q1	通期予想(修正前)
売上高	68,356	81,964	91,624	369,500
営業利益	11,790	11,699	13,663	43,800
営業利益率	17.2%	14.3%	14.9%	11.9%
EBITDA	14,037	15,786	18,159	62,552
EBITDAマージン	20.5%	19.3%	19.8%	16.9%



大幅な増収効果により販管費増を吸収し、営業利益は大幅増益

	2025年度 Q1		2026年度 Q1		
(百万円)	金額	売上比	金額	売上比	対前年(%)
売上高	81,964	100.0	91,624	100.0	11.8
売上総利益	45,852	55.9	51,593	56.3	12.5
販管費	34,153	41.7	37,930	41.4	11.1
販促費	4,318	5.3	4,970	5.4	15.1
広告費	7,938	9.7	9,050	9.9	14.0
研究開発費	3,386	4.1	3,365	3.7	▲0.6
その他	18,509	22.6	20,543	22.4	11.0
営業利益	11,699	14.3	13,663	14.9	16.8
経常利益	16,127	19.7	14,491	15.8	▲10.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,769	14.4	10,650	11.6	▲9.5
EBITDA	15,876	19.3	18,159	19.8	15.0
為替(ドル/円)	146.16		158.80		
為替(元/円)	20.95		22.66		

主な増減要因

売上影響

- ・EYS、ロート単体、ベトナム、中国の売上増
- ・為替影響：+38億円

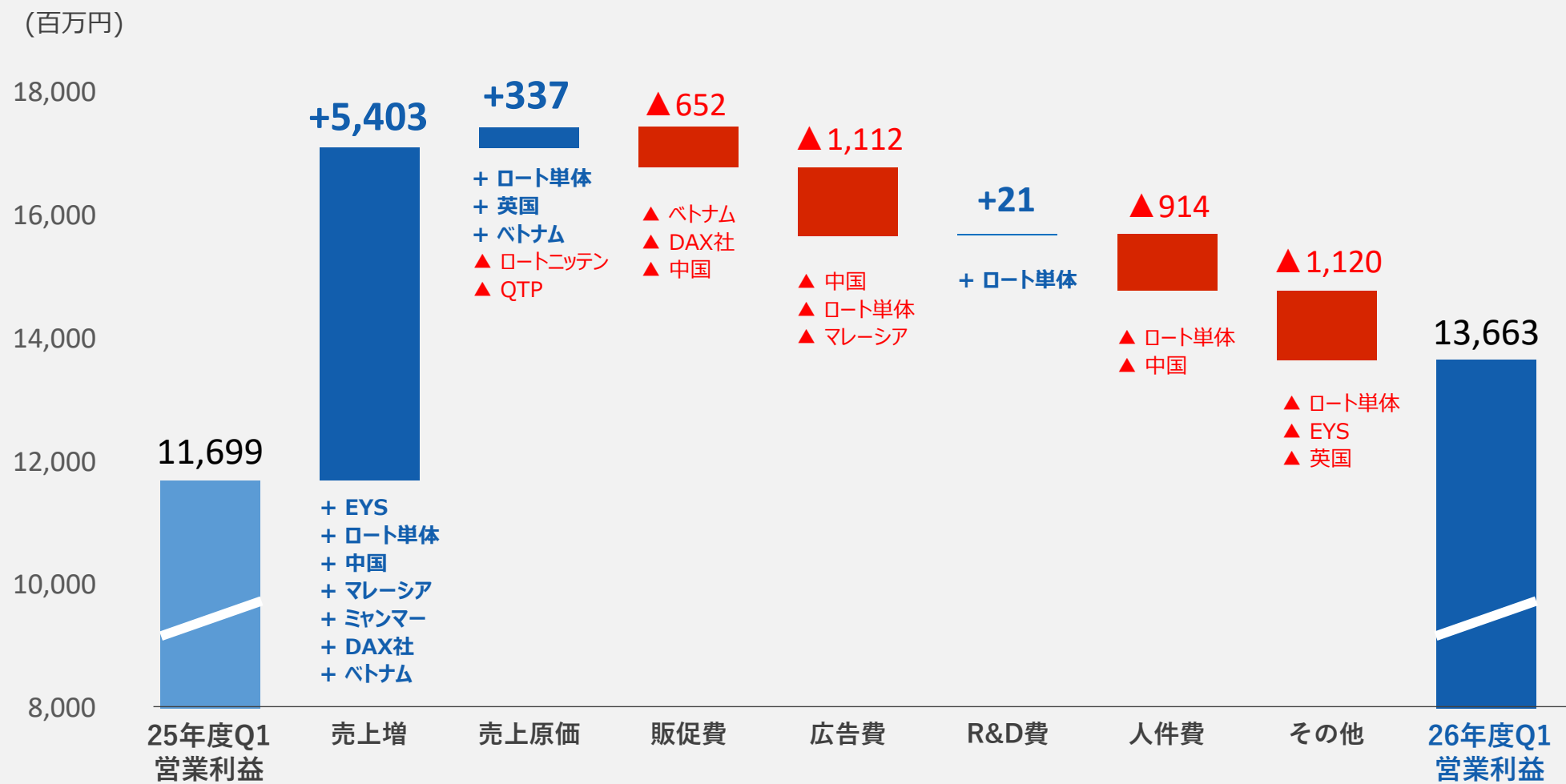
利益影響

- ・為替影響：+7億円
- ・売上増の影響：+54億円
- ・原価率：-0.4pt
- ・原価影響：+3億円

特殊要因

- ・ロート単体の一部販管費の執行の後ろ倒し
- ・前期の一時的な受取配当金計上の反動減

営業利益増減の要因(前年同期比較)



| 売上 | 事業x地域セグメントマトリックス



日本

- ・アイケア増収 : 若者用目薬・高額目薬などが好調
- ・スキンケア増収 : 「肌ラボ」、「オバジ」、「ケアセラ」が好調
- ・内服・食品増収 : V5が増収、エピステームドリンクが減収
- ・メディカル増収 : QTP、ロートニッテンが増収



アメリカ

- ・スキンケア増収 : 米国メンソレータム社の増収
- ・メディカル増収 : オフサルモス社の増収



アジア

- ・アイケア増収 : 中国、ベトナム、ミャンマーが増収
- ・スキンケア増収 : マレーシア、インドネシアが増収
- ・内服・食品増収 : EYSが好調に推移



ヨーロッパ

- ・スキンケア増収 : DAX社、英国が増収
- ・その他減収 : モノ社の減収

	日本		アジア		アメリカ		ヨーロッパ		その他		海外計		合計	
	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率
アイケア	5,725	8.6	4,444	45.6	551	0.1	83	82.2	60	-	5,141	40.8	10,866	21.8
スキンケア	23,845	6.0	17,874	14.9	3,669	6.7	5,123	29.0	763	4.3	27,429	15.7	51,275	11.0
内服・食品	6,220	3.4	11,521	18.3	22	245.9	46	86.7	180	59.0	11,771	19.1	17,991	13.2
メディカル	6,557	1.5	1,021	0.4	1,043	15.4	548	▲0.1	0	-	2,612	5.8	9,170	2.7
その他	515	1.6	743	96.6	178	24.1	882	▲10.2	0	-	1,804	19.9	2,320	15.3
合計	42,864	5.2	35,604	19.7	5,465	8.3	6,684	19.9	1,004	18.9	48,759	18.3	91,624	11.8
通期予想(修正前)	174,300	2.9	141,500	12.9	21,800	1.1	27,700	16.0	4,200	15.7	195,200	11.9	369,500	7.5

営業利益 | 地域セグメント別



日本

- ・ロート単体は「肌ラボ」の値上げの影響で大幅増益
- ・天藤製薬は売上増に伴う売上総利益の増大により増益
- ・ロートニッテンは薬価改定による原価率の増加で減益
- ・QTPは原価率の上昇により減益



アメリカ

- ・米国メンソレータム社が大幅増益
- ・ハイドロックス社は原材料高騰に伴う原価率の上昇で減益
- ・オフサルモス社が減益



アジア

- ・台湾、マレーシア、香港、ベトナム、インドネシアが増益
- ・EYSは売上増の影響で大幅増益
- ・中国は売上増も広告費の増加の影響で減益
- ・ミャンマーは輸入ライセンス取得による正常化で大幅増益



ヨーロッパ

- ・英国は消炎鎮痛剤の出荷の正常化により大幅増益
- ・「Hadalabo Tokyo」が好調のDAX社が大幅増益
- ・モノ社は売上減少も原価率の改善効果で大幅増益

(百万円)

	2025年度 Q1	構成比(%)	2026年度 Q1	構成比(%)	前期比(%)	予算(修正前)	進捗率(%)
日本	6,310	53.9	6,867	50.3	8.8	22,900	30.0
アジア	4,777	40.8	5,676	41.5	18.8	16,700	34.0
アメリカ	184	1.6	226	1.7	22.6	1,400	16.1
ヨーロッパ	134	1.2	664	4.9	392.7	1,400	47.5
その他	74	0.6	37	0.3	▲ 48.7	500	7.6
調整額	217	1.9	190	1.4	▲ 12.3	900	21.2
合計	11,699	100.0	13,663	100.0	16.8	43,800	31.2

売上高 428億64百万円 | 前期比+5.2% (対前年+21.0億円)
営業利益 68億67百万円 | 前期比+8.8% (対前年+5.5億円)

売上

- ・若者用目薬、高額目薬などアイケアやサプリメント「ロートV5」が好調に推移
- ・「肌ラボ」、「オバジ」、「ケアセラ」、リップクリーム等が好調に推移
- ・ロート単体は「肌ラボ」が値上げ後も売上個数、金額ともに堅調に推移し増収(前期比+1桁半ば%)
- ・インバウンド需要過去最高を更新
- ・QTP(前期比+1桁半ば%)、ロートニッテン(前期比+1桁前半%)が増収に寄与
- ・天藤製薬はプレミアム製品の発売による増収(前期比+1桁半ば%)

営業利益

- ・ロート単体は販管費が増加したものの、増収に伴う売上総利益の拡大で大幅増益(前期比+2桁%)
- ・ロート単体の広告費、研究開発費など一部執行が次期以降にずれ込み増益幅拡大
- ・天藤製薬は大幅増益(前期比+2桁%)、QTPは減益(前期比△2桁%)
- ・ロートニッテンは薬価改定の影響による原価率の上昇により大幅減益

「ロートジーキングスライム目薬」
を限定販売



ひんやり新色も大人気の
プランパーリップ



2026年4月出荷分より全品値上げ実施

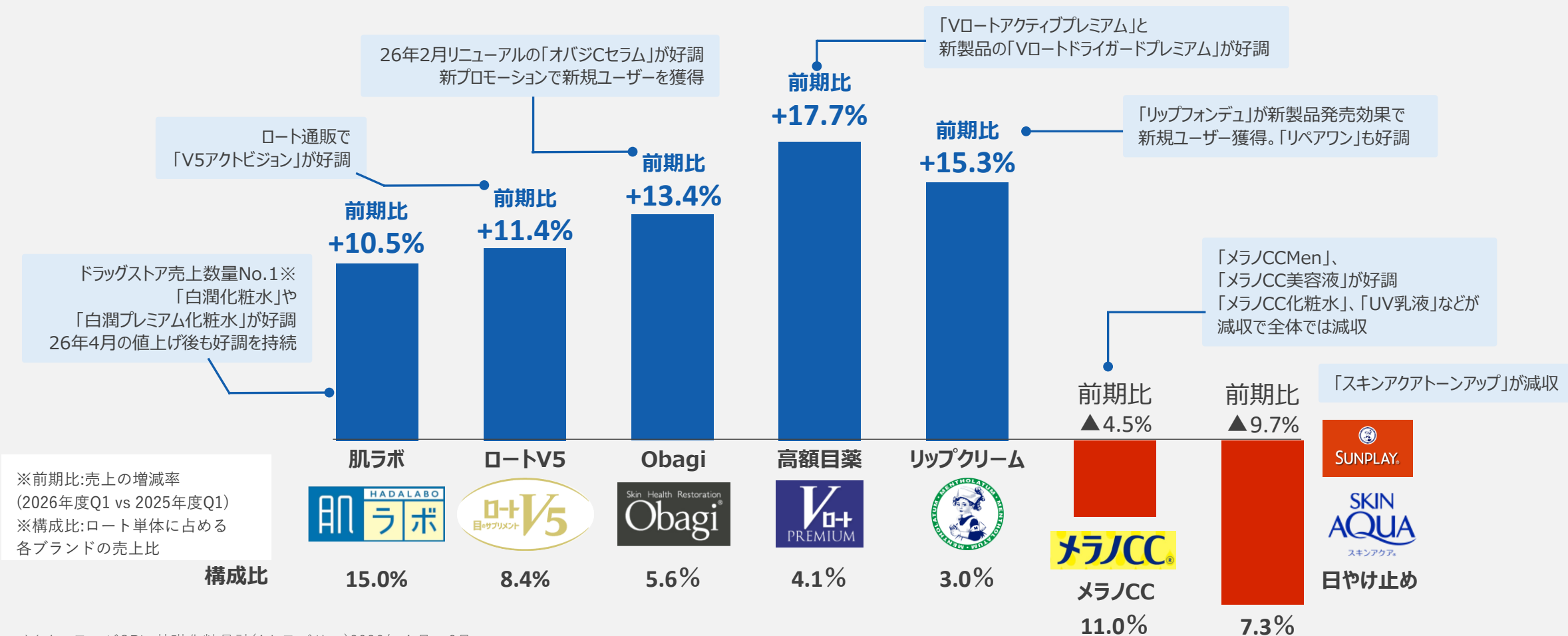


ボラギノールのプレミアム
シリーズが好調に推移



「Gyuttoコルセットヘアミルク」が
2026年6月にECで先行発売

主要ブランドが好調に推移



※イメージSRI+基礎化粧品計(4カテゴリー)2026年4月～6月

売上高 356億04百万円 | 前期比+19.7% (対前年+58.6億円)
営業利益 56億76百万円 | 前期比+18.8% (対前年+8.9億円)

為替の影響
+24.1億円

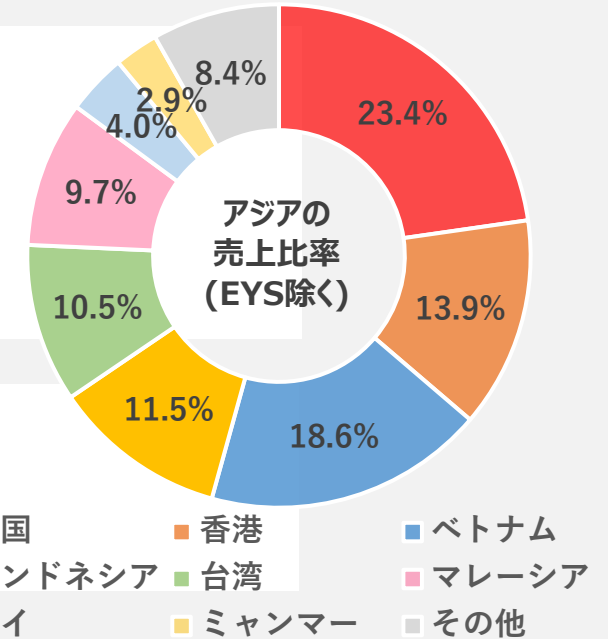
売上

- ・ベトナム、中国、マレーシア、ミャンマー、台湾、インドネシアが好調に推移
- ・ベトナムは目薬、「肌ラボ」、「アクネス」が好調に推移し、大幅増収
- ・中国は目薬、「アクネス」が好調に推移し大幅増収
- ・マレーシアは引き続き「肌ラボ」が好調に推移し、大幅増収
- ・ミャンマーは輸入ライセンス取得によるオペレーションの正常化で大幅増収

為替の影響
+5.8億円

営業利益

- ・ベトナム・インドネシアなど東南アジアが引き続き好調に推移し、増益に寄与
- ・ミャンマー輸入ライセンス取得によるオペレーションの正常化で大幅増益
- ・台湾、マレーシアは増収に伴う売上総利益の拡大により大幅増益



アジアで、「肌ラボ」が若年層の顧客獲得に向けて新たなイメージキャラクターを起用し各種キャンペーンを展開



ミャンマーでは「アクネス」が好調で大幅増収



タイでは目薬の販売を開始

売上高 120億17百万円 | 前期比+17.2% (対前年+17.9億円)
営業利益 15億65百万円 | 前期比+35.2% (対前年+4.0億円)

為替の影響
+9.5億円

売上

- ・マレーシアは旧正月の売上が好調に推移し大幅増収(前期比+2桁%)
- ・香港は市況は依然として低調なものの売上は前年並みで推移
- ・シンガポールは現地通貨は減収も為替の影響で増収を確保(前期比+1桁半ば%)
- ・香港・シンガポールの市況は依然として低調なものの、旧正月商戦の対象期間が前年より長く、為替の影響も寄与し大幅増収

為替の影響
+1.2億円

営業利益

- ・増収に伴う売上総利益の拡大により、営業利益は大幅に増加
- ・販売費及び一般管理費のコストオペレーション改善施策も増益に寄与
- ・連結のれん等償却前利益は15.6億円と高いキャッシュ創出力と収益性を実現
- ・EYSのれん償却(4.2億円)、商標権その他無形固定資産の償却費(2.4億円)

マレーシアの著名なファッションデザイナー、
ジミー・チュウ氏とコラボした春節ギフトセットが
マレーシア、シンガポールで好評



春節商戦における
プロモーションを強化し、
ブランド露出を拡大



チキンエッセンスが
好調に推移

EYSのアセットを活かし、さらなる価値と利益の創出へ

海外で幅広い製品を展開

カテゴリー



食品
TCMサプリメント
TCM(医薬品)



東南アジアを中心に187超の直営店舗を展開
圧倒的に高いブランド力



価値の
拡張

協業・新製品の展開

6月23日に2件の技術リリース公開

冬虫夏草エキスの肌、頭皮への新たな効果の確認



睡眠の質向上



香港の「50の恵」で
ヘアケアサブリを展開
海外市場



記憶力と認知
能力の維持



(ツバメの巣、チキンエッセンス、靈芝)
日本市場への製品投入

シナジー
創出

1.原価削減

・内製化率向上による原価率改善

2.固定費削減

・グループ機能のスリム化による人件費削減
・在庫削減・倉庫スペースの見直し

3.売上向上

・SKUの適正化、EC売上向上の取り組み

4.展開国拡大(既存商品)

稼ぐ力の向上により営業CF37億円と高いキャッシュ創出力を確保

売上高 54億65百万円 | 前期比+8.3% (対前年+4.2億円)
営業利益 2億26百万円 | 前期比+22.6% (対前年+0.4億円)

為替の影響
+4.8億円

売上

- ・米国メンソレータム社が増収(前期比+2桁%)
- ・ハイドロックス社は注文減の影響で減収(前期比△1桁前半%)
- ・ブラジルのオフサルモス社の眼科向製品が好調に推移し増収(前期比+2桁%)
- ・メンソレータムブラジル社も「肌ラボ」が好調に推移し増収に寄与(前期比+2桁%)

為替の影響
+0.2億円

営業利益

- ・米国メンソレータム社は増収により増益
- ・ハイドロックス社は原材料高騰の影響で減益
- ・オフサルモス社は新ラインの稼働による一時的な生産減により原価率が上昇し、減益

ハイドロックス社の
医療機関向け消毒剤



「肌ラボ」はブラジルオンラインストア
を活用し高成長を持続

売上高 66億84百万円 | 前期比+19.9% (対前年+11.1億円)
営業利益 6億64百万円 | 前期比+392.7% (対前年+5.2億円)

為替の影響
+8.1億円

売上

- ・英国は消炎鎮痛剤の出荷の正常化により大幅増収(前期比+2桁%)
- ・「Hadalabo Tokyo」、「YOSKINE」が好調なDAX社が大幅増収(前期比+2桁%)
- ・モノ社は市況悪化の影響を受け受託生産が落ち込み減収(前期比△1桁前半%)
- ・南アフリカは消炎鎮痛剤、「セルサン」が好調

為替の影響
+0.9億円

営業利益

- ・英国で消炎鎮痛剤の出荷の正常化により原価率が改善し、大幅増益
- ・DAX社は生産効率化と高価格帯製品の売上増で原価率が改善し、大幅増益
- ・モノ社は受託生産の減少も原価率の改善により大幅増益

出荷正常化に伴い
Deepシリーズが
大幅増収



DAX社は初期
エイジングラインの
「YOSKINE LONGEVITY」
を新発売



「Hadalabo Tokyo」は
引き続き好調を維持

Rohto | 2027年3月期 業績予想 2026年4月-2027年3月

売上高、営業利益、当期純利益*は過去最高を更新予想

※親会社株主に帰属する当期純利益

- ・インフレによるコスト負担の増加や地政学リスクに起因する不確実性など、先行きは依然として不透明な状況が続くと想定
- ・中東情勢に起因する影響は、現時点で把握可能な範囲で織り込み済み
- ・アジア、日本が想定を上回り好調に推移したことに加え、為替レートの見直しにより、連結業績予想を上方修正

| 売上高：372,300百万円 前期比+8.3%、(為替影響：+114億円) | 上方修正

日本	インバウンド需要は不確実であるものの国内消費は手堅く推移と見込む 「肌ラボ」、「ロートV5」、目薬などコア事業が引き続き成長予定 ロート単体、天藤製薬が増収に貢献予定
海外	東南アジアを中心としたアジア、ヨーロッパで2桁増の大幅な増収を見込む ベトナム、マレーシア、インドネシア等 東南アジアに加え中国、EYSも増収を見込む アメリカはHydrox社、ブラジル子会社が増収予定 ヨーロッパは英国、DAX社が成長し増収に貢献予定

| 営業利益：45,000百万円 前期比+9.4%、(為替影響：+13億円) | 上方修正

日本	コア事業が引き続き成長しロート単体が増益予定
海外	東南アジアが好調に推移し、EYS、英国、中国は増益に貢献、米国は減益も大幅増益予定

▶ 当初予定通り、年間配当を4円増配し、23期連続増配予定（変更なし）、配当性向32.1%を予定

足元の業績、為替の状況を踏まえて、5月13日の公表値から上方修正

- ・売上高：+28億円、営業利益：+12億円、経常利益：+13億円、当期純利益：+7億円を上乗せ
- ・為替の影響(対5/13公表値)：売上+30億円、営業利益+3億円
- ・為替の影響(対前年)：売上+114億円、営業利益+13億円

	2026年度 通期予想				2026年度		2025年度
(百万円)	修正予想 (B)	構成比	対前年(%)	修正額 (B-A)	5/13 公表値 (A)	対前年(%)	金額
売上高	372,300	100.0	8.3	2,800	369,500	7.5	343,725
営業利益	45,000	12.1	9.4	1,200	43,800	6.5	41,118
経常利益	47,400	12.7	▲1.2	1,300	46,100	▲3.9	47,971
親会社株主に帰属する 当期純利益	35,200	9.5	2.8	700	34,500	0.7	34,247
EBITDA	63,700	17.1	8.9	1,148	62,552	6.9	58,496
1株当たり当期純利益	155.78				152.68		151.56
為替(ドル/円)	158.00				155.00		149.99
為替(元/円)	23.00				22.00		20.82

コア事業が引き続き成長：ロート単体、アジアが増収に貢献予定

- ・為替の影響(対5/13公表値)：アジア＋17億円、アメリカ＋6億円、ヨーロッパ＋7億円
- ・為替の影響(対前年)：アジア＋79億円、アメリカ＋13億円、ヨーロッパ＋16億円、その他＋4億円
- ・アジアはEYS、ヨーロッパはモノ社の売上成長率をそれぞれ引き下げ

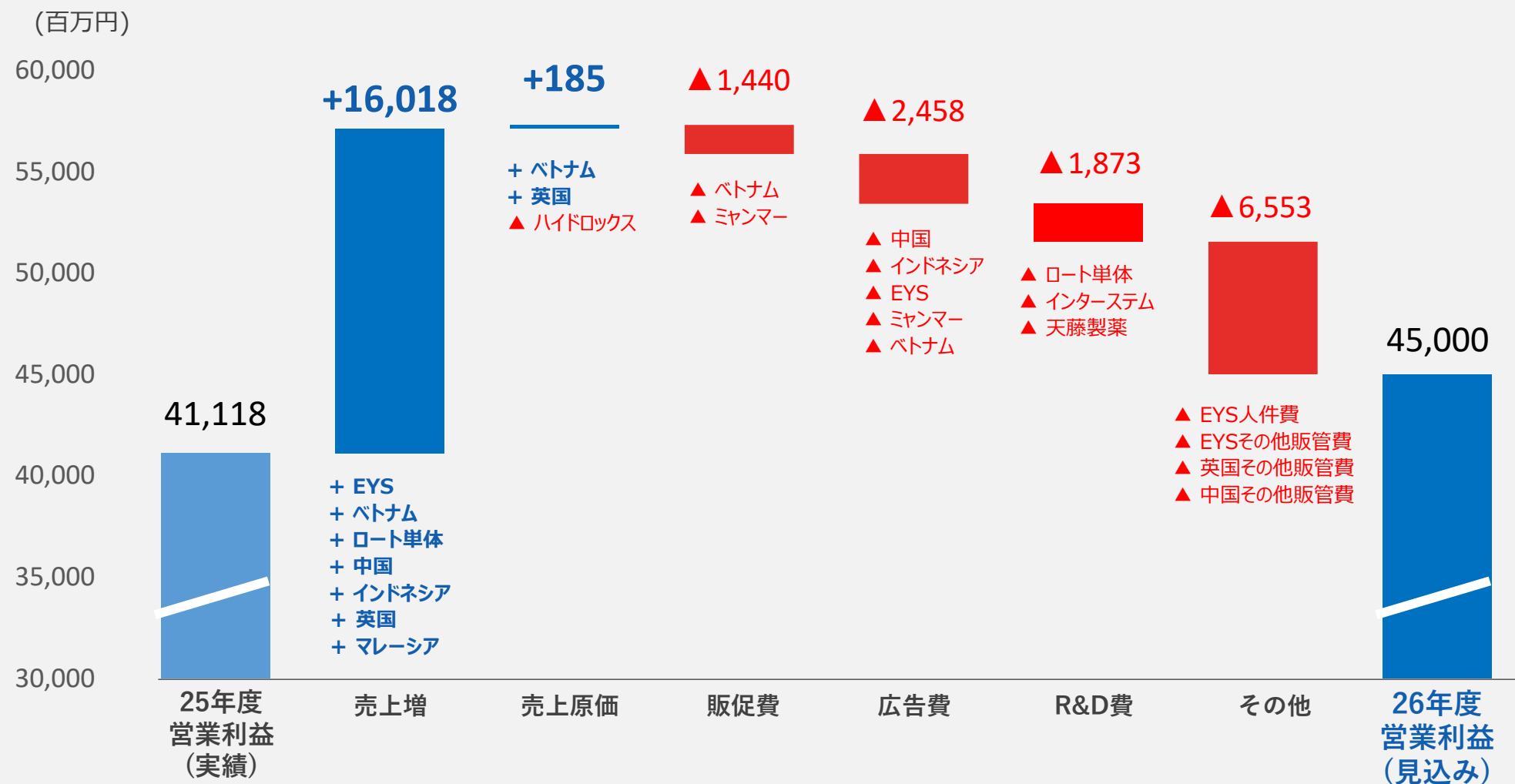
	2026年度 通期予想				2026年度		2025年度
(百万円)	修正予想 (B)	構成比	対前年(%)	修正額 (B-A)	5/13 公表値 (A)	対前年(%)	金額
売上高	372,300	100.0	8.3	2,800	369,500	7.5	343,725
日本	174,400	46.8	3.0	100	174,300	2.9	169,326
アジア	142,900	38.4	14.0	1,400	141,500	12.9	125,327
アメリカ	22,600	6.1	4.9	800	21,800	1.1	21,553
ヨーロッパ	28,200	7.6	18.0	500	27,700	16.0	23,889
その他	4,200	1.1	15.7	0	4,200	15.7	3,628
為替(ドル/円)		158.00			155.00		149.99
為替(元/円)		23.00			22.00		20.82

ロート単体は肌ラボの値上げによる売上総利益の拡大を見込み、上方修正

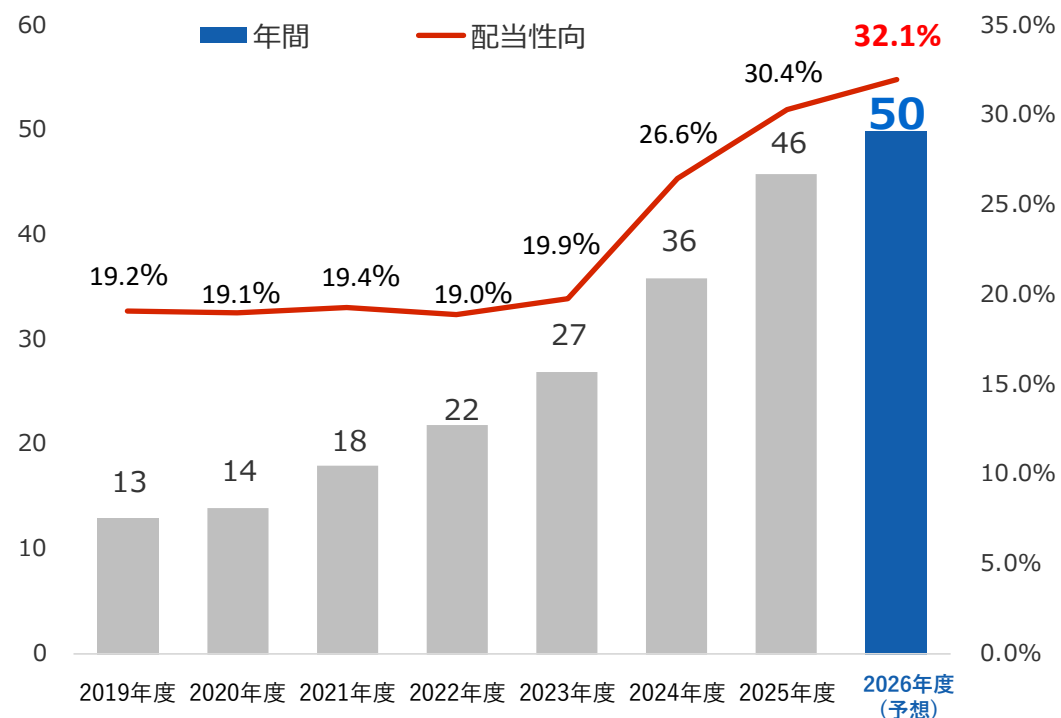
- ・為替の影響(対5/13公表値)：アジア+2億円、アメリカ+0億円、ヨーロッパ+0億円
- ・為替の影響(対前年)：アジア+12億円、アメリカ+0億円、ヨーロッパ+0億円、その他+0億円
- ・アジアはインドネシア、ベトナムをはじめ東南アジアが好調に推移し、大幅増益予定

	2026年度 通期予想				2026年度		2025年度
(百万円)	修正予想 (B)	構成比	対前年(%)	修正額 (B-A)	5/13 公表値 (A)	対前年(%)	金額
営業利益	45,000	100.0	9.4	1,200	43,800	6.5	41,148
日本	23,400	52.0	5.8	500	22,900	3.5	22,126
アジア	17,300	38.4	15.0	600	16,700	11.0	15,048
アメリカ	1,200	2.7	▲29.6	▲200	1,400	▲17.9	1,705
ヨーロッパ	1,700	3.8	68.8	300	1,400	39.0	1,007
その他	500	1.1	30.3	0	500	30.3	383
調整額	900	2.0	6.3	0	900	6.3	846
為替(ドル/円)		158.00			155.00		149.99
為替(元/円)		23.00			22.00		20.82

営業利益増減の要因見通し(上方修正後)



中間配当25円、期末配当25円 年間50円（変更なし） （配当性向32.1%を予定）



配当性向
30%
以上

DOE
3.5%
以上

▶ 【株主還元方針】一時的な利益の変動に左右されず、継続的安定的に増配をおこなう

Magic Codのネットワークを活用し、欧州で販売体制を強化



名称

Magic Cod d.o.o.

所在地

セルビア共和国

事業内容 | 化粧品・雑貨の輸入販売およびマーケティング

持分譲渡実行日 | 2026年7月8日

販売国 | セルビア、クロアチアなどのバルカン半島地域に加え、
イタリア、スペイン、北欧地域等に販売・取引ネットワークを有する

これまでの取り組み |

2017年より当社化粧品ブランドの販売およびマーケティング活動を担う
「Hadalabo Tokyo」、「YOSKINE」のヨーロッパでの販売

今後の取り組み |

「Hadalabo Tokyo」、「YOSKINE」のヨーロッパでの販売拡大
ロート目薬の東ヨーロッパでの販売拡大



オセアニア地域のセルフメディケーション事業を強化



取得ブランド

Pain Away 「ペイン アウェイ」

譲渡元

Wellnex Life Limited

ブランド | 1999年にオーストラリアで誕生した外用鎮痛剤ブランド
アルニカ等を取り入れた幅広い製品を展開し、広く消費者に親しまれてきた

契約締結日 | 2026年8月6日

契約内容 | Pain Away（ペインアウェイ）ブランドに関する事業権、知的財産権を取得

今後の取り組み |

「Deep Heat」と「Pain Away」それぞれのブランドの価値を生かしながら、商品開発、営業、マーケティング、製造、物流等の連携を進め、豪州におけるセルフケア事業のさらなる強化を図る



「フィットエクソソーム」の主力ブランドへの展開を推進



名称

オーピーバイオフィクトリー株式会社

所在地

沖縄県うるま市

事業内容 | 海洋生物資源の探索・培養・分析、機能性成分開発

これまでの取り組み | 微細藻類「パプロバ」など海洋生物資源に関する研究開発の連携

今後の取り組み | 素材として研究を進めてきた海洋生物資源「パプロバ」の機能性研究や
応用開発に加え、海洋微細藻類に由来する細胞外小胞に着目した
「フィットエクソソーム」研究など、製品・事業の展開を推進

※「パプロバ」
沖縄のマングローブ
に生息する微細藻類



フィットエクソソーム技術

肌の基本機能を支える

主力スキンケアブランドへ

経営戦略説明会の開催

日時 : **10月2日(金) 10:00~11:00**
場所 : **ロート製薬 東京オフィス**
開催方法 : **オンライン&オフラインのハイブリッド形式**
アジェンダ(予定) : **中長期アップデート、事業戦略、ガバナンス、総括**
対象 : **機関投資家・アナリスト向け**

登壇者

代表取締役会長 **山田 邦雄**
代表取締役社長 **瀬木 英俊**
取締役副社長 CFO **斉藤 雅也**
常務取締役 CMO(チーフメディカルオフィサー) **藤本 陽子**
社外取締役 **岩田 彰一郎**

登壇者やアジェンダは現時点の内容であり、
変更の際はご容赦ください。

[今後のIR問い合わせ窓口 : ir@rohto.co.jp](mailto:ir@rohto.co.jp)



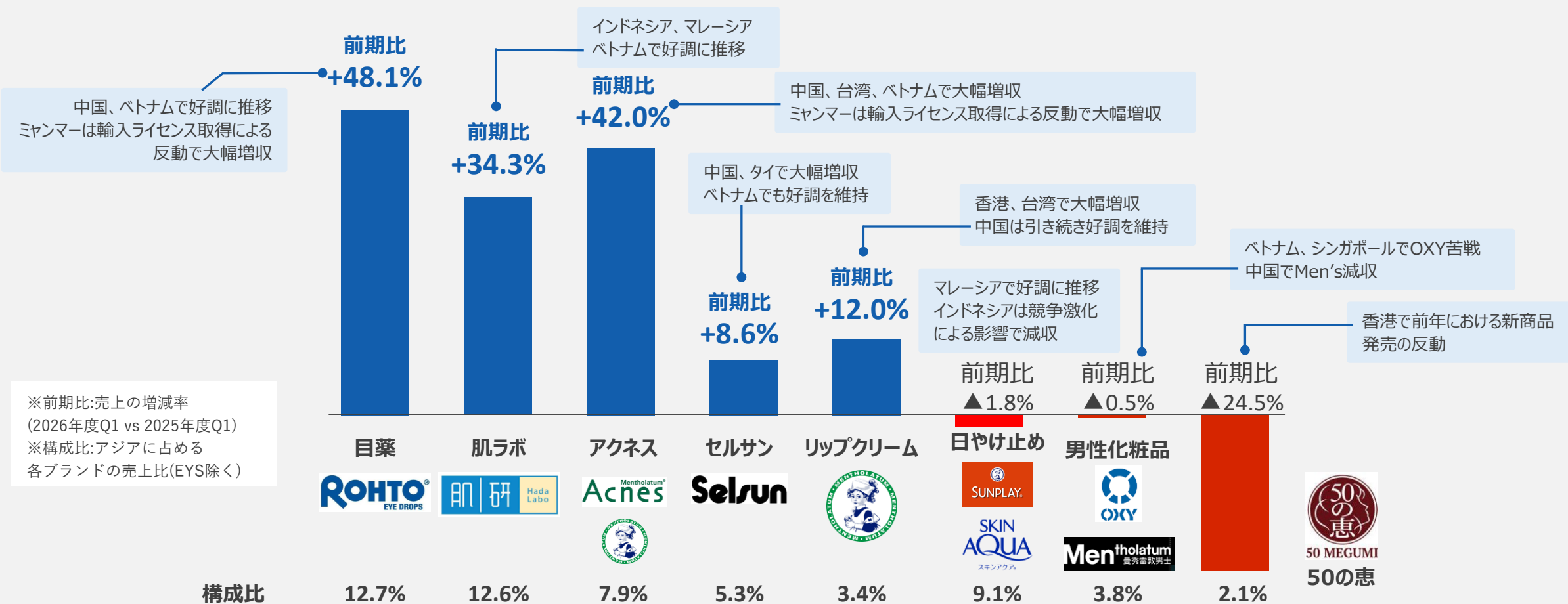
| APPENDIX

ベトナム、インドネシアが高成長を維持

	2026年度 3月期(前年比)					2027年度 3月期(前年比)
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q
ロート単体	+1桁前半	+1桁半ば	▲1桁半ば	+1桁後半	+1桁前半	+1桁半ば
中国	▲1桁前半	+1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半	+1桁前半	+1桁後半
香港	+1桁前半	+1桁半ば	▲1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半	▲1桁後半
台湾	+10%台前半	+1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半	+1桁半ば	+1桁半ば
ベトナム	+10%台前半	+10%台前半	+10%台半ば	+10%台半ば	+10%台前半	+20%台前半
インドネシア	+30%台半ば	+20%台半ば	+1桁半ば	+10%台後半	+20%台前半	+10%台半ば
マレーシア	-	-	-	-	-	+10%台半ば

※マレーシアの2025年度3月期はシンガポールの売上を含むため、2026年度3月期の成長率は非開示
※EYSの売上除く

目薬、肌ラボ、アクネスなど主要ブランドが好調に推移



セグメント別売上マトリックス | 2026年度通期予想



日本

- ・アイケア増収 : 前期好調の花粉目薬の反動
- ・スキンケア増収 : 「肌ラボ」、「オバジ」が成長をけん引見込み
- ・内服・食品増収 : V5が増収、エピステームドリンクが減収見込み
- ・メディカル増収 : QTPが増収予定



海外

- ・アイケア増収 : アジアで目薬が好調に推移する見込み
- ・スキンケア増収 : 東南アジアが成長をけん引予定
- ・内服・食品増収 : EYSが増収予定
- ・メディカル増収 : オフサルモスが増収予定

	2026年度 通期予想						2025年度（実績）		
	国内計		海外計		合計		国内計	海外計	合計
	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	(百万円)	(百万円)
アイケア	25,400	▲0.5	20,800	4.8	46,200	1.8	25,537	19,844	45,381
スキンケア	94,800	3.6	121,100	14.9	215,900	9.6	91,506	105,417	196,923
内服・食品	24,000	5.3	36,800	16.7	60,800	11.9	22,801	31,541	54,342
メディカル	28,100	2.7	11,600	8.2	39,700	4.3	27,353	10,724	38,078
その他	2,100	▲1.3	7,600	10.6	9,700	7.8	2,127	6,870	8,998
合計	174,400	3.0	197,900	13.5	372,300	8.3	169,326	174,399	343,725

研究開発費は連結売上高の4.3%の予定

広告費・研究開発費

(百万円)

	2024年 Q1	2025年 Q1	2026年 Q1	増減額	2024年度	2025年度	2026年度予想
広告費	7,004	7,938	9,050	1,112	39,224	40,942	43,400
売上比	10.2%	9.7%	9.9%	-	12.7%	11.9%	11.7%
研究開発費	3,644	3,402	3,390	▲12	14,995	13,861	15,900
売上比	5.3%	4.2%	3.7%	-	4.9%	4.0%	4.3%

資本的支出・減価償却費・のれん償却費

(百万円)

	2024年 Q1	2025年 Q1	2026年 Q1	増減額	2024年度	2025年度	2026年度予想
設備投資額	2,734	2,641	4,855	2,214	15,070	16,665	21,800
減価償却費	2,155	3,579	3,950	370	12,096	15,329	16,600
のれん償却費	91	506	545	38	1,205	2,048	2,100

※設備投資額には、有形固定資産、無形固定資産および使用権資産への投資を含み、企業結合、事業譲受、ブランド・商標権等の取得に伴う取得・認識額を除いています。

※減価償却費はのれん償却額を除く

未来への投資 | 医療用パイプラインの進捗(変更なし)

医療用点眼薬

開発コード	対象疾患	開発段階
ROH-101	・サイトメガロウイルス角膜内皮炎 ・単純ヘルペスウイルス角膜炎	・2026年4月30日承認申請 ・P3
ROH-201	・春季カタル ・ドライアイ	・P2 ・P2
ROH-202	・眼科用治療剤	・P1
ROH-001	・近視進行抑制	・P2

再生医療等製品

ヒト脂肪由来幹細胞	ADR-002K	・重症心不全	・P2
	ADR-001	・腎疾患 ・肝硬変 ・重症下肢虚血 ・肺線維症	・P1/2 ・導出含め検討中 ・導出含め検討中 ・導出含め検討中
ヒト臍帯由来幹細胞	UDI-001	・神経変性疾患	・導出含め検討中
自家軟骨細胞	CCI	・外傷性軟骨結晶	・申請準備中
他家軟骨細胞	TLC-01	・変形性膝関節症	・P2

資本政策についても当初予定に沿って進行中

インフロー	アウトフロー 使用使徒		金額	方針
資金調達 200億円 営業CF 3,300億円 （研究開発費控除前）	成長投資	設備投資	1,000億円 (34%)	・需要拡大に応える海外生産設備増強 ・サイエンスハブ東京、研究とお客様の接点の場
		研究開発費	900億円 (33%)	・コア事業の更なる加速を推進する研究開発 ・ROH101の承認申請を完了
		DX/IT投資	300億円 (15%)	・G-ERPの基幹システムの構築
		M&A等	500億円 (40%)	・Obagiの商標権の取得、THANN社を取得
	株主還元	配当など	800億円 (26%)	・配当性向30%以上、DOE3.5%以上 ・中長期的な利益成長に合わせて増配 ・26年に30億円上限で自己株買いを実施予定

()内は2025年度実績と2026年度予算2年分の進捗率

- 本資料は、投資判断の参考として、弊社の現状を理解して頂くために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、作成時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料には、医薬品等（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 投資を行う際は、ご自身の判断において行っていただきますようお願いいたします。
- 本資料を利用することにより生じた、いかなるトラブルおよび損失、損害に対して、弊社は一切責任を負いません。

